



令和3年度 学校だより

はがきた

第11号 令和4年2月25日

教育目標

集中して学び、生命と人権を守り、生きる力の基礎を身に付けた子どもを育成する。
『学ぶ子 守る子 がんばる子』



残すところあと1か月!

早くも2月下旬、3学期は残すところあと1か月となりました。少しずつ春の気配が感じられるようになり、保護者の皆様におかれましてはますます御健勝のことと思います。

全国的に新型コロナウイルス感染症による第6波が襲い本校においても多大な影響がありました。しかし、皆様の御協力により大きく広がることはなく、児童は元気に学校生活を送っています。様々な面で御協力いただきましたことに改めて感謝いたします。年度末ということで、学習状況など御心配かと思いますが、授業時数の確保はできています。この後予定通りに進められれば問題はないはずですので、御安心ください。

6年生の教室には、『卒業まであと〇〇日』という掲示があり、少し寂しさを感じます。残りの日々を、友達と楽しく、よい思い出たっぷりで過ごしてほしいと思っています。在校生にとっても次学年への大切な準備期間です。先日、5年生は、6年生から「はがきた当番」の引継を行っていました。最上級生になるという5年生の意欲に満ちた姿はとても頼もしいです。たった1つの学年ですが、大きな違いがあるように思います。1年生から4年生もお兄さんお姉さんになる準備をしているように見えました。



保護者会中止 残念です!!

2月18日(金)に予定していました保護者会ですが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止ということになってしまいました。何とか実施できないものかと何段階かに対策を考えたのですが、とても残念です。本年度最後の授業参観でしたので、実施できたならばきっとこの1年で成長した児童の姿がお目につけられたのではないかと思います。残念でなりません。次年度は、このような状況であってももう少し児童の様子を参観していただけるよう、何らかの方法や対策を考えていこうと思います。

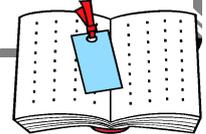
ネット時代の歩き方講習会

保護者会時に予定していた5、6年対象の「ネット時代の歩き方」講習会を、児童だけでしたが、オンラインで実施しました。これからの時代、なくてはならないものの1つがネット。ネットの使い方ではなく、付き合い方と題したお話で、気を付けるべきことをわかりやすく話して頂きました。各御家庭で、ぜひお子様と話題にしてください。有意義な会話になると思います。



読み聞かせ

2/15(火)の朝、教職員による読み聞かせが行われました。これは毎月行っているもので、今月は、私も行いました。不思議な内容の物語だったので、児童の楽しい素直な反応が、とても微笑ましいものでした。こういった活動が、本校の児童の豊富な読書量を支えているように思いました。



3月の主な行事予定

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1(火) 教職員による読み聞かせ | 14(月) ICT支援員訪問 |
| | 15(火) 卒業式予行 清掃がんばり週間 |
| 2(水) 6年生を送る会 | 18(金) 卒業式 |
| 4(金) スクールサポーター芳賀北来校 | 22(月) ICT支援員訪問 |
| 8(火) ICT支援員訪問 | 清掃がんばり週間 |
| 9(水) 交通安全教室 | 次年度バス座席決定(業間) |
| 10(木) ICT支援員訪問 | 修業式 |
| 11(金) スクールサポーター芳賀北来校 | 24(木) 学年末学年始休業(~4/7) |
| | 25(金) |



☆児童たちの活躍・学校生活の様子☆

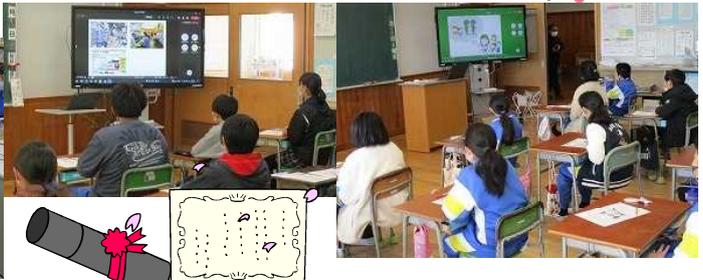
【English Day】(4年)



【プログラミング学習】(6年)



【ネット時代の歩き方講習会】



【思春期教室】(6年)



【ミシンボランティア】



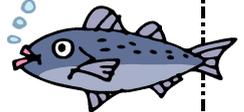
鳥の目、虫の目、魚の目

「鳥の目、虫の目、魚の目」という言葉を御存知でしょうか。この言葉は主に、会社などのビジネスの研修によく使われる言葉だそうです。しかし、それだけでなく、私たち教師のように人と関わる視点で考えても有効な方法であると思います。

「鳥の目」は鳥のように高いところから全体を俯瞰する目です。大所高所から全体を見つめ、全体を把握することが必要だという意味です。「虫の目」はその逆で、地に面した低い位置から近くを詳しく見る目です。一人一人に対して個々の行動を把握し理解することが必要だという意味です。そして「魚の目」。魚は、どの方向へ川が流れていくかということを感じ取っています。そこから時代の流れや世の中の流れをつかむことが必要だという意味になります。

勉強でも仕事でも、何か問題があると、問題そのものに目が行きがちになります。しかし、いきなり細かいところから着手するのは有効な方法ではありません。そこで必要となるのが「鳥の目」です。全体を捉える視点で、自分の現在の状況や問題の大きな成り立ちなどが把握できれば、取り組み方が見えてきます。次に「虫の目」で見ます。低く近い位置から注意深く細かく見ることで目の前の問題を正しく認識できます。3つめに「魚の目」です。流れを把握する目ですから、このような問題がなぜ起こったのかや、真の原因は何なのかを深く考えたり、いい方向へ向かっているか、どんな結果になりそうかを見通したりすることができます。これらの3つの目は、それぞれに優れた面とそうでない面があります。つまり、問題解決や目標達成にはどれか1つあればいいというわけではなく、3つの異なる見方を使い分けて解決や達成に近づいていくということなのです。

この3つの目の視点を私たち教師の立場から児童を見ることや保護者の立場から子どもを見るというように生かすことができれば、これはたいへん有効であるように思うのです。1つの視点では見えなかったことも3つの視点があれば、全体や細かいところ、流れやタイミングまで理解することができるようになると思うのです。理解ができれば、一人一人の成長を支援するために何が必要かの手助けになるとと思います。この3つの目を意識し、子どもたちの理解に役立てていきましょう。



※芳賀北小ホームページでは、カラーで学校だよりを掲載しています。
ぜひ御覧ください。